

アナログ KVM スイッチ(4ポート)[PY-KVFA04],(8ポート)[PY-KVFA08]

(1) 概要

本装置は、1 セットのモニター/キーボード/マウスを複数のサーバで共有するための切替器で、4 台/8 台のサーバを切り替えることができます。本装置をカスケード接続することにより、接続できるサーバ数を増やすことができ、最大構成は 8 ポートアナログKVMスイッチ 9 台で 64 台のサーバを切り替えることができます。

本装置は、外付装置または通常設置領域への搭載に加え、スタンダードラックの縦置設置領域への搭載が可能です。また、ラック・コンソール格納キット[PY-RC08]を別途手配することにより 17 インチ ラック・コンソール[PY-R1DP1]への内蔵搭載として使用できます。



図1 外観写真 (4ポート、8ポート共通)

(2) 特長

① PG 型名との相違点について

標準添付していた AC100V ケーブル(2m)1 本をオプションで別手配することに変更しました。これにより、電源環境によっては不要となっていたケーブルを必要なケーブルのみを別手配することができます。

詳細については(3)仕様の添付品、(4)オプション関連およびシステム構成図を参照ください。

② サーバインターフェースとして、USB をサポート

本装置では PS/2 に加え USB 接続もサポートしています。

オプションケーブルの選択のみで簡単に USB サーバを接続できます。

PS/2 インターフェースを持つサーバは、PS/2 インターフェースのみをサポートし、USB インターフェースのみを持つサーバは、USB 接続をサポートします。

③ フラットディスプレイ装置へ搭載可能(PY-R1DP1 のみ搭載可能)

本装置1台を 17 インチ ラックコンソール[PY-R1DP1]へ内蔵することが可能。(図 4 参照)

ラック・コンソール格納キット[PY-RC08]を別手配する必要があります。

1Uのスペースで4台/8台のサーバ切り替え機能及びコンソール機能が実現でき、ラックスペースを有効に使用できます。

④ スタンダードラックの縦置設置領域への搭載

スタンダードラックでは縦置設置領域に本装置を搭載することにより、通常のラックスペースを占有しないため、ラックの拡張性に貢献します。(図 6 参照)

⑤ ホットキー切り替え機能

キーボードで接続サーバを切り替えること(ホットキー切り替え)ができます。

ホットキー切り替え時は、OSD(On Screen Display)表示され接続サーバの電源投入状態が確認でき、

上下カーソルキーまたは数字キーにより接続サーバを選択、切り替えることができます。

⑥ カスケード接続機能

本装置は、2段までのカスケード接続が可能ですので、将来のシステム規模拡大へ柔軟に対応することが可能です。

なお、4ポートアナログ KVM スイッチと8ポートアナログ KVM スイッチの混在接続も可能ですので、接続サーバの台数にあわせた最適な構成を構築できます。

また、従来モデルの KVM スイッチ PG-SB201 及び PG-SB202 との混在接続も可能です。

但し、マスターが PG-SB203/PG-SB204/PG-SB205/PG-SB206 または PY-KVFA04/KVFA08 でカスケード接続用ケーブルが PG-CBLDP12(PS/2 1.8m)または PY-CBKCP01(PS/2 1.8m)のみサポート。

* PG-SB104、PG-SB105 との混在接続はできません。

(3) 仕様

名称		アナログKVMスイッチ(4ポート)	アナログKVMスイッチ(8ポート)	(参考:従来モデル)
型名		PY-KVFA04	PY-KVFA08	PG-SB205, PG-SB206
接続台数		4台	8台	4台/8台
カスケード接続		4ポートアナログKVMスイッチをマスターとした場合 最大構成はスレーブに4台の8ポートアナログKVMスイッチを接続した場合で32台のサーバが接続可能 8ポートKVMアナログスイッチをマスターとした場合 最大構成はスレーブに8台の8ポートアナログKVMスイッチを接続した場合で64台のサーバが接続可能		←
サーバとのインターフェース仕様		・PS/2キーボード/マウスインターフェース(OADG準拠) ・USB 1.1準拠(Full Speed対応、HIDコンポジットデバイス)		←
接続コネクタ ※詳細は図2を参照	共通 コンソールポート	モニター:VGA D-Sub15Pin メス ×1 キーボード:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1、USB Aタイプ ×1 マウス:PS/2 ミニDIN 6Pinメス ×1、USB Aタイプ ×1		←
	サーバポート	D-Sub15Pin メス ×4 (モニター/キーボード/マウス共通)	D-Sub15Pin メス ×8 (モニター/キーボード/マウス共通)	D-Sub15Pin メス X4/X8 (モニター/キーボード/マウス共通)
ホットキー切り替え		ホットキーモード(キーボードでサーバを切り替える機能)は2種類あり、OSD(On Screen Display)表示が異なる。各モードに移行後、数字キー、ファンクションキー、カーソルキーで選択し、Enterキーで決定、Escキーでキャンセルとなる。詳細は取扱説明書をご確認ください。 *ホットキーのキー操作は変更できます。 1)ホットキーモード1 Ctrlキー+Altキー+Shiftキー同時押下またはScroll Lockキーを連続2回押下することによりホットキーモードとなる。 2)ホットキーモード2 Ctrlキーを連続2回押下することによりホットキーモード2となる。 ※ホットキーモード中はキーボード(切り替えのためのキーを除く)及びマウスは使用できない。但し、設定変更によりマウスをホットキー切り替えに割り当て可能。		←
オートスキャン		ホットキーモード移行後、数字キーの0を押下することによりオートスキャンモードに移行する。一定の周期で電源が投入されているサーバを自動的に切り替えることが可能。切替周期は上下カーソルキーにより3/5/10(初期値)/20/40/60秒に変更可能。		←

表示およびボタン ※詳細は図3を参照	なし 切替等は、OSDIにより行います。		Select スイッチ (×4) または Select スイッチ (×8) Select スイッチにより、 ポートを直接選択。 Auto Scanボタン ボタンを押下でオートス キャンモードになる。
VCCI	クラスA	クラスA	クラスA
質量	約1.6kg	約1.7kg	約 1.6kg(SB205) 約 1.7kg(SB206)
外形寸法 (W×D×H)	432 mm×125 mm×42 mm (H にゴム足 3.0 mm含まず)		←
入力電源	AC100V-240V単相、 50/60Hz、平行2ピンアース付き NEMA5-15P準拠		←
消費電流	AC 100V -AC240V/ 0.3A		←
消費電力	7.3 W	7.6 W	7.3 W (SB205) 7.6 W (SB206)
添付品	保証書 1部、取扱説明書 1部 ゴム足 4個(外付使用時) ラック取り付け金具 2個 ラック取り付け金具用ネジ(M3×6) 6本 ラック取り付け用ネジ(M6×15) 4本 ケージナット 4個		←に加え、電源ケーブ ル(2m) 1本

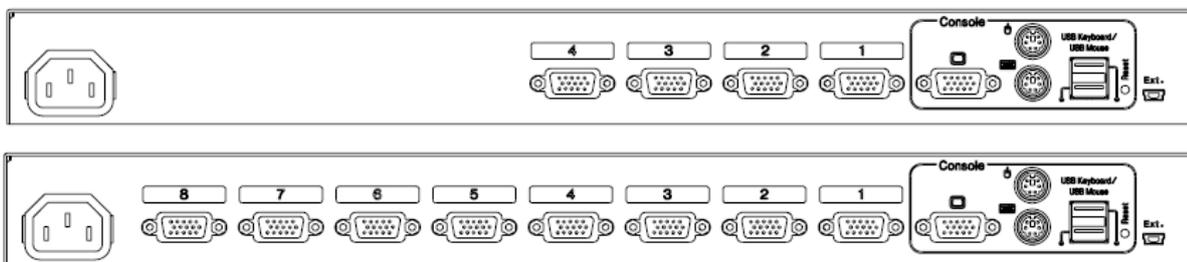


図2 装置背面図 (上段 : 4ポート、下段 : 8ポート)



図3 装置正面図 (4ポート、8ポート共通)



図4 本装置を17インチ ラック・コンソール(RC25)に搭載時の外観写真

注)17インチ ラック・コンソール(RC25)「PY-R1DP1」搭載時はラック格納キット(PY-RC08)の別途手配が必要となります。

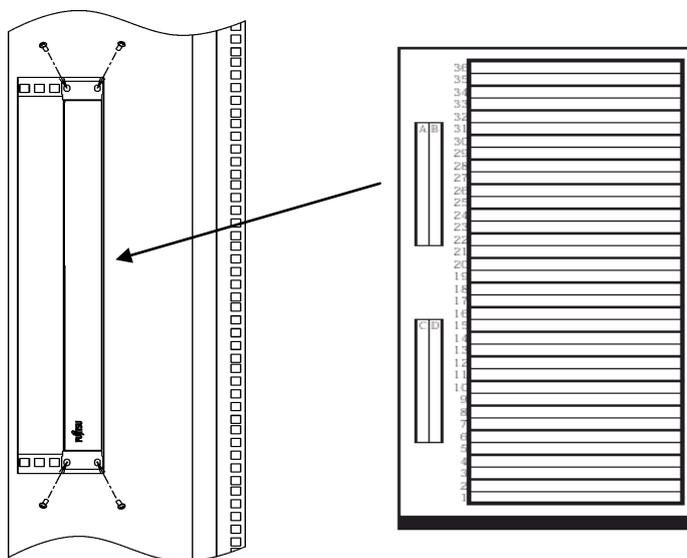


図6 ラック縦設置領域への搭載写真と取り付け概要

(4) オプション関連 (別途手配品)

名称	型名	仕様・適用		(参考:従来モデル)
		アナログKVMスイッチ(4ポート) [PY-KVFA04]	アナログKVMスイッチ(8ポート) [PY-KVFA08]	PG-SB205 PG-SB206
KVM ケーブル (PS/2)	PY-CBKCP01 PY-CBKCP02 PY-CBKCP03	本装置とサーバを接続するために必要な専用接続ケーブルで長さは1.8m/3m/5mがある。カスケード接続で本装置同士を接続する場合はPS/2用1.8m(PY-CBKCP01)を使用すること。 ※カスケード接続の本装置分と接続サーバ台数分の合計数分のケーブルが必要。		PG-CBLDP12/13/14
KVM ケーブル (USB)	PY-CBKCU01 PY-CBKCU02 PY-CBKCU03	例:本装置1台で4台のサーバを接続 → 4本(0+4)必要 本装置3台で9台のサーバを接続 → 11本(2+9)必要		PG-CBLDP15/16/17
ラック・コンソール格納キット	PY-RC08	17インチ ラック・コンソール(PY-R1DP1)の背面に搭載するキット。 取り付け金具5個、ケーブル(VGAx1本, USBx1本)から構成されます。		PG-R1CK30
電源ケーブル	PY-CBP102 PY-CBP103 PY-CBP104 PY-CBP105	100V対応電源ケーブル(NEMA 5-15P準拠)プラグ。 ケーブル長は、上から3m/0.5m/1m/1.5m。		100V 対応 2m 標準添付
電源ケーブル	PY-CBP201	AC200V対応電源ケーブル(NEMA L6-15) 丸型プラグ。 UPSに接続可。 ケーブル長は3m。		←
電源ケーブル	PY-CBP202 PY-CBP203 PY-CBP204 PY-CBP205	IAC200V対応電源ケーブル(EC603200-C14) PDU接続用。 UPSとの接続は未サポート。 ケーブル長は、上から3m/0.5m/1m/1.5m。		PY-CBP202

(5) 規格の取得状況

安全規格	UL 60950-1, 1st Edition 準拠
電気用品安全法	対象外(オプション電源ケーブルに関しては適合品を採用)
電波規格	VCCI クラス A
RoHS 指令	対応済み
J-MOSS (日本版 RoHS)	対象外
グリーン購入法	対象外

(6) 接続形態

接続形態は、図 7 をご参照ください。

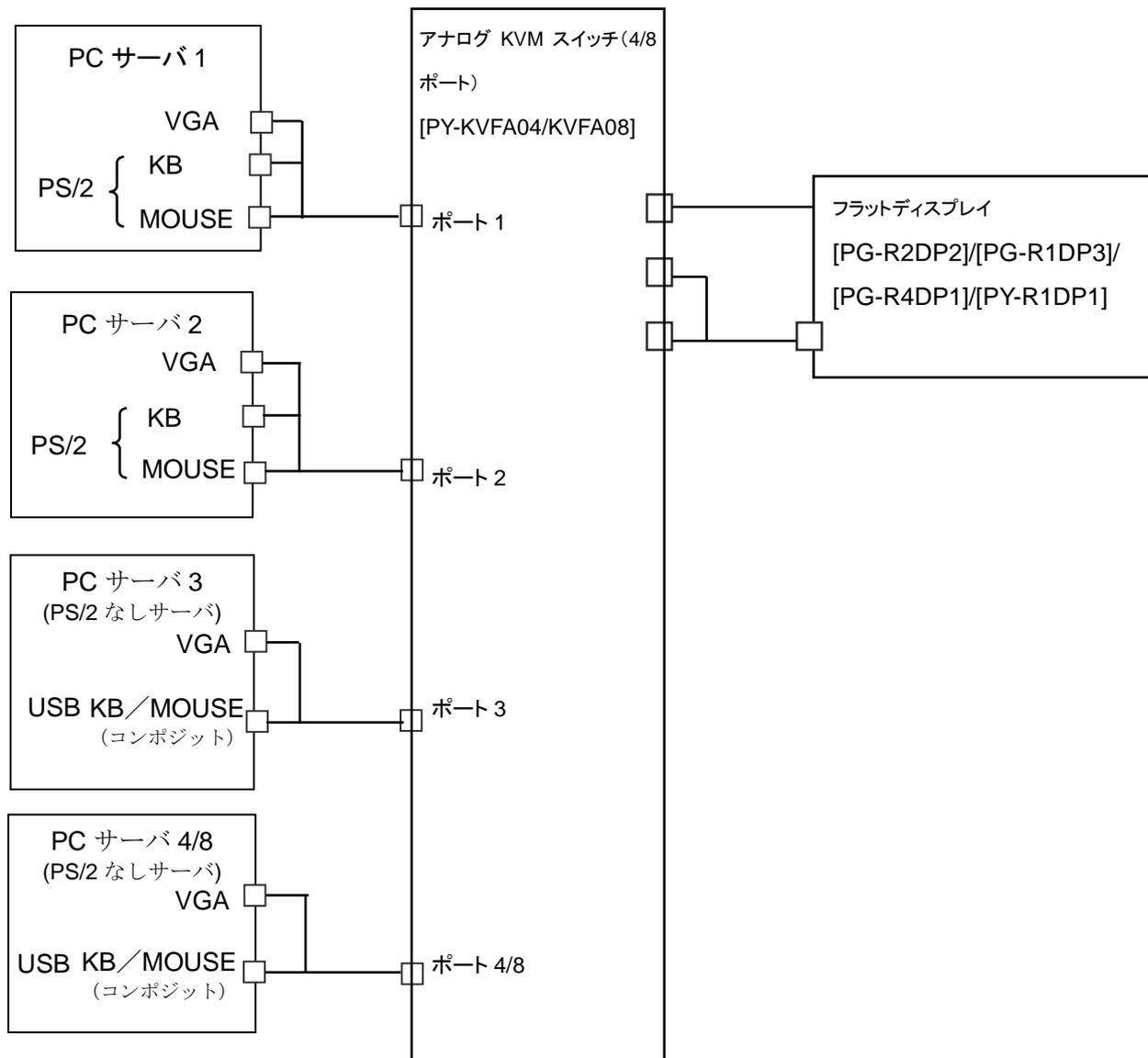


図 7 接続形態図

(7) 留意事項

①アナログ KVM スイッチおよび接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)の交換について

アナログ KVM スイッチおよび接続されている機器(フラットディスプレイ、モニタ、キーボード、マウス)は、電源投入したままでは交換できません。交換を行う場合は、接続されている全てのサーバ(ブレードサーバが接続されている場合は、ブレードシャーシも含む)と全ての機器の電源を切断する必要がありますので、ご注意ください。

電源を切断しない場合には、装置の破損、誤動作の原因となることがあります。

②アナログ KVM スイッチのラック搭載について

ラックの通常設置領域への搭載(水平方向)は、背面のみの搭載になります。(前面への搭載はできません。)

なお、操作パネルは分離できません。

③アナログ KVM スイッチと KVM ケーブルの接続については、下表を参照願います。

		PY-KVFA04 PY-KVFA08 PG-SB205 PG-SB206	PG-SB203 PG-SB204	PG-SB201 PG-SB202
KVM(CRT/KB) ケーブル	PY-CBKCU03/PG-CBLDP17 PY-CBKCU02/PG-CBLDP16 PY-CBKCU01/PG-CBLDP15	○	○	×
	PY-CBKCP03/PG-CBLDP14 PY-CBKCP02/PG-CBLDP13 PY-CBKCP01/PG-CBLDP12	○	○	×
	PG-CBLDP11 PG-CBLDP10 PG-CBLDP09	×	×	○
	PG-CBLDP08 PG-CBLDP07 PG-CBLDP06	×	×	○
	PG-CBLDP04 PG-CBLDP03 PG-CBLDP02	×	×	×
カスケード接続	PY-KVFA04/KVFA08 PG-SB205/SB206	○ *1	○ *1	○ *2
	PG-SB203/204	○ *1	○ *1	○ *3
	PG-SB201/202	○ *2	○ *3	○ *4

○:接続可能 ×:接続不可

*1: KVM ケーブル(PG-CBLDP12/PY-CBKCP01)にて接続することでカスケード可能です。

*2: KVM スイッチ(PG-SB205/206, PY-KVFA04/KVFA08)をマスターとして、KVM ケーブル(PG-CBLDP12/PY-CBKCP01)にて接続することでカスケード可能です。

*3: KVM スイッチ(PG-SB203/204)をマスターとして、KVM ケーブル(PG-CBLDP12)にて接続することでカスケード可能です。

*4: KVM ケーブル(PG-CBLDP06)にて接続することでカスケード可能です。

④システム構成図(外付編)のKVMスイッチ使用時の留意事項について

PRIMERGY(旧サーバ)とKVMスイッチの接続可否に関する表で×非サポートと記載されている組み合わせは、基本的には評価が未実施のためです。

以上